

株式会社日本建物センター

大泉泰昭

代表取締役



📞 03-6279-7403

🌐 jbc-ihinseiri.studio.site

🏠 東京都練馬区上石神井3-28-3
飯野ビル2F

ビジョン

「紡ぐ」ことを大切にしていきます。
そのために正直に誠実に対応いたします。
必ずお見積もりにお伺いし、追加料金は一切
いただきません！

高齢化が進む日本では、人生の最期に向けた準備として「終活」への関心が高まっています。特に、生前整理や遺品整理は、残される家族の負担を減らすだけでなく、自分らしい人生の締めくくりを考える大切な取り組みとして注目されています。東京・神奈川・埼玉を中心に遺品整理・生前整理のサポートを行う株式会社日本建物センターは、単なる片付けではなく「心の整理」としての終活支援を大切にしています。今回は、日本建物センターの大泉泰昭代表に、終活に向き合うようになった背景や、家族に安心を残すための生前整理・遺品整理の考え方、地域社会における終活支援の役割についてお話を伺いました(2026年2月取材)。

終活との出会い——「遺品整理・生前整理」にたどり着いた理由

大泉さんのこれまでについてお伺いします。まず学生時代はどのような経験をされましたか？

実は学生時代、学業よりも新宿の歌舞伎町で友人と遊んでワイワイ過ごす時間の方が長かったんです(笑)。そこでは、全く知らない方に自分から声をかけるという経験を積みました。最初は声をかける勇気もなく、無視されることも多かったのですが、どうすれば振り向いて話を聞いてもらえるかを試行錯誤しました。この時に培った「相手の心を開く話法」や「断られてもめげないメンタル」は、社会に出てからの営業活動で非常に役立ちました。現在の終活サポートや、ご家族の心に深く寄り添う生前整理・遺品整理の現場でも、初対面のお客様と信頼関係を築くための大きな土台となっています。



営業成績トップとして活躍される中、なぜ自動車業界から損害保険業界へと転職されたのでしょうか？

一番の理由は「独立したい」という強い思いと、「常にお客様の側に立ちたい」という葛藤からです。自動車業界のルールでは、下取りを自社に囲い込むことが求められましたが、私はお客様にとって他社で高く売れるならそちらを提案したいと考えていました。組織のルールよりお客様の利益を優先するために独立を決意したんです。その後、大手保険会社で研鑽を積み、全国50名の同期のうち、私を含む2名しか突破できなかった厳しい条件をクリアして、保険代理店として独立を果たしました。

独立の準備期間中には、人材派遣業の立ち上げにも関わられていたそうですね。

はい、保険での独立準備期間中に、大学の同期から誘われて「株式会社日本派遣センター」の立ち上げに役員として携わりました。ここでは主に葬儀社様へプロフェッショナルな人材を派遣していました。

そこで葬儀の現場に深く関わる中で、ご遺族から「家をどう片付けたいか」「誰か紹介してほしい」という切実な声を多く聞いたんです。それが、今携わっている東京・神奈川・埼玉エリアでの事業ニーズに気づく大きなきっかけとなりました。

保険代理店から、現在の「整理」を主軸とした事業をスタートさせた経緯を教えてください。

初対面のお客様と信頼関係を築くための大きな土台となっています。保険のお客さまから、施設入居や逝去に伴うご自宅の相談をいただくことが増え、当初は「お掃除」の会社としてスタートしました。しかし、お客様が本当に困っているのは単なる掃除ではなく、人生の節目における「物の整理」だと気づきました。不透明な高額請求をする悪徳業者から大切なお客様を守り、保険の仕事と同様に一生涯責任を持ってサポートしたい。そう考えて、生前整理・遺品整理に特化した現在の形にたどり着きました。



東京・神奈川・埼玉で広がる遺品整理・生前整理サービス

「日本建物センター」というネーミングには、どのような理念や想いが込められているのでしょうか？

事業を立ち上げる際、ただの「お掃除センター」や「片付け業者」といった名前にはしたくありませんでした。「日本建物センター」と名付けたのは、ゆくゆくはご自宅や建物に関わるあらゆるお困りごとを、総合的に解決できる会社にしていきたいという理念を込めているからです。生前整理や遺品整理にとどまらず、お客様の建物全体と、そこで過ごされたご家族の記憶にしっかりと向き合い、未来へ向けたお役立ちができるワンストップの窓口でありたいと考えています。



生前整理や遺品整理のサービスにおける、具体的な料金体系はどのようになっていますか？

弊社は徹底して「価格の透明性」にこだわっています。業界では「トラック1台でいくら」という曖昧な見積もりが多い中、弊社ではお荷物の体積に基づく「立米（立方メートル）計算」を基準としています。現在は1立米あたり1万5,000円程度。軽トラック1台分（約3~4立米）など、実際に測ってお見積もりを出し、真面目な「適正価格」を提示しています。

漫画も掲載しています。続きはQRコードからアクセスください ↓↓↓

